

目的 報告者は1979年、本学会において「発達過程と生活構造(Ⅰ)」を発表したが、本報告はそのⅡにあたる。すなわち(Ⅰ)においては、生活を構造的にとらえて、生活主体の発達過程を乳幼児期から老年期まで仮説的に提示し、発達主体の全体的姿を捉えることとをこころみた。具体的には、発達主体の核となる人間的要求を「三つの願いテスト」によって明らかにしたが、そのさいは、小学1年から大学2年までの広義の児童期まででおおっている。そこで今回は、高齢者に視点を置き、高齢者の人間的要求をとらえ、すでに明らかにしてきた児童期の場合と対照的に分析することとを目的とした。

方法 報告(Ⅰ)と同様「三つの願いテスト」による。これは開かれた問いであり、現実的になかなかならぬと思われるものであって、も答えてよいように問い。三つ願いごとを書いてもらう方法である。対象は、農村地域、住宅地域、有料老人ホーム、公民館の寿大学の70歳以上の老人を中心に、146名の記述をもとにして分析した。(※まほう便のおはあさんが来て、「みなさんがとてよくやっておられるので、何でも三つだけみなさんの願いをかたえてあげよう」と言ったとしたら、あなたはどんなことをお願いしますか。)

結果 書かれた願いを報告(Ⅰ)の方法と同様に自分の内側にむくものと外側に向くものに分けて整理した。①自分自身に関すること、②家族、③社会、④能動的な社会参加、⑤趣味⑥経済上分類した。その結果、高齢者は児童期に比べて圧倒的に健康(自分自身)への願いが高いこと、家族の安全についても高い率で願っているが、同時に社会的な要求が具体的であり、自分自身の積極的な社会参加向上を求めていることが明確になり、高齢者の特徴的な姿がみられた。